

**アクションプラン  
総括的検証報告書  
釧網線**

---

**令和6年1月**

**釧網線アクションプラン実行委員会**

# はじめに

---

- **本報告書は、平成31年4月9日に公表されたアクションプラン第1期計画（令和元～2年度）および令和3年4月16日に公表された第2期計画（令和3～5年度）の5年間の取組状況について、釧網線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。**
- **第1期・第2期計画期間ともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたが、感染拡大防止に最大限留意しながら、線区を活性化するためアクションプランの推進に取り組んだ。加えて、令和5年度は、公共交通の利用実態・意向調査や観光列車の利用促進に資する各種実証事業にも取り組んだ。**
- **本検証を踏まえ、釧網線を持続的に維持する仕組みを構築するための検討等につなげていく。**

# 1 目的・具体的取組の基本方針

## (1)目的

- 釧網線を持続的に維持していくため、J R北海道と地域の関係者は、収支改善に資する具体的な取組を進める。
- これにより、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。

## (2)具体的取組の基本方針

- 道内外から釧網線にお越しいただくための取組や、外部事業者との連携などにより、観光線区としての線区特性を最大限発揮する。
- 利用促進、経費節減の取組を推進し、線区の収支改善を図る。
- 日常の生活利用の観点から地域住民の皆様へのマイレール意識の醸成を進める。

## 2 具体的取組の検証①

### (1)実施状況

- ・ 総括的検証にあたり、取組実施及び効果検証における新型コロナウイルスの影響の有無を明確にし、第1期計画期間も含めた再検証を実施。
- ・ 41件の取組については、新型コロナウイルスの影響により、効果を十分に検証できず、うち3件については計画した取組そのものが実施できなかった。

※具体的取組、検証結果等の詳細は別紙を参照。

	第1期		第2期		合計
	件数 (割合)	主な取組	件数 (割合)	主な取組	件数 (割合)
◎	39 (56%)	・観光鉄道としての利用促進の取組	41 (59%)	・釧網線90周年の取組 ・極端にご利用の少ない駅の廃止	80 (58%)
○	3 (4%)	・学生の通学定期券購入に対する助成制度の検討	5 (7%)	・極端にご利用の少ない踏切の見直しについて各自治体との協議	8 (6%)
△	22 (31%)	・夏・冬の道東キャンペーンの実施	19 (28%)	・S Lや流氷物語号など各種観光列車の運行と運行に対するご協力	41 (29%)
×	6 (9%)	・中長期的視野に立った利用促進策の検討	4 (6%)	・札幌駅や新千歳空港駅での宣伝協力	10 (7%)
合計	70		69		139

◎：計画した取組を全て実施し、効果検証できたもの

○：計画した取組の一部を実施し、効果検証できたもの

△：新型コロナウイルスの影響により、計画した取組が実施できなかったもの、または、取組を実施したものの、効果検証が十分にできなかったもの

×

## 2 具体的取組の検証②

### (2)取組項目別実施状況

		実施状況					取組結果
		◎	○	△	×	計	
利用促進	共通	33	0	9	2	44	・ノック号体験乗車の実施、限りある車両でのダイヤについての意見交換が実施できた一方、友好都市の小中学生による釧網線乗車実施などは新型コロナの影響により、一部計画した取組が実施できなかった。
	生活利用	4	2	2	0	8	・スマホ定期券の活用や大規模輸送障害発生時の運休等の情報内容の充実は実施できたが、鉄道乗車運賃の助成などで新型コロナの影響により、効果検証が十分にできなかった。
	観光利用	28	0	25	3	56	・釧網線90周年の取組や外部事業者と連携した取組は実施できた一方、観光列車の利用増などで新型コロナの影響により、効果検証が十分にできなかった。
	広域交通	0	0	2	0	2	・官公庁、域内事業者による出張等での鉄道利用促進の取組を実施したものの、新型コロナの影響により、効果検証が十分にできなかった。
経費節減		10	2	3	0	15	・極端にご利用の少ない駅の見直し等は実施できた一方、観光案内や通訳業務等、SL期間中の学生ボランティア等は、新型コロナの影響により、一部計画した取組が実施できなかった。
その他		5	4	0	5	14	・鉄道設備を維持するための「線路集中メンテナンス」を令和元年度より5年間実施した一方、中長期的視野に立った利用促進施策の検討は実施できなかった。
合計		80	8	41	10	139	

# 3 5年間の象徴的な取組について

## 特別な「ノロッコ号」を運行

利用  
促進

令和2年9月、世界3大夕日に数えられる釧路の夕日を楽しんでいただく「夕陽ノロッコ号」の運行を開始した。他にも川湯温泉駅延長運転、令和5年の実証事業では釧路湿原駅の長時間停車や10月の夕陽ノロッコ運行を初めて行った。令和元年からの輸送実績は22万9千人となっている。



## 「釧網線リモートトラベル」の実施

利用  
促進

釧網本線維持活性化協議会とWILLER(株)は、令和3年と4年の2年間で3回「釧網線リモートトラベル」を実施した。沿線の風景等の映像をオンライン配信し、のべ約630人の参加者が有名タレントと同時に視聴し、共に旅行したような気分を味わっていた。コロナ後の旅行需要につなげる取組とした。



## 細岡駅の季節営業化

経費  
節減

地域の皆様のご理解をいただき、令和5年3月のダイヤ改正で冬期間ご利用の少ない細岡駅を「季節営業駅」とした。4月25日から11月30日までを営業、12月1日から営業停止とし冬期除雪費、電気代等の年間約50万円の経費節減が期待できる。



## 小学生による駅舎ペインティング

意識  
向上

自治体、学校関係者、地元の皆様等に協力頂き、令和元年9月、美留和小学校の児童7人が美留和駅舎のペインティングを行った。また、実施前に釧網線の現状や見どころを知ってもらうためのJR出前教室を開催した。9月30日にはJRから小学生の皆様へ感謝状を手渡した。





# 4 調査・実証事業 結果検証①

○「総括的な検証」を行うにあたり、データとファクトに基づき検証を行うため、国及び北海道の補助金を活用し、令和5年度に調査・実証事業を実施。

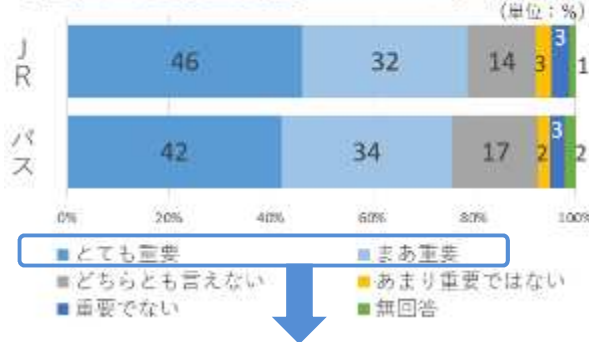
## 公共交通利用実態調査(地域住民アンケート)

■調査内容：釧網線沿線居住者800人対象（18歳以上・高校生除く無作為抽出）・回答235人(29%)

①利用頻度：JR・バス



②公共交通の重要度：JR・バス



③今後の利用意向：JR・バス



日常的な利用（週2日以上）が、JRで0%、月1～4日でも3%と極めて少なく、80%が全く使わないと回答。※自家用車所持97%

### JRを利用しない理由(188件中)

- ・車の方が自由に動ける162件(86%)
- ・乗る習慣が無い57件(30%)

### バスを利用しない理由(205件中)

- ・車の方が自由に動ける167件(82%)
- ・乗る習慣が無い71件(35%)

実際の利用者は少ないにも関わらず、公共交通としてJR・バスとともとても重要とまあ重要を合算すると8割弱となる。

### JRが重要な理由(185件中)

- ・通学に必要な125件(68%)
- ・高齢者などのため122件(66%)

### バスが重要な理由(192件中)

- ・高齢者などのため121件(68%)
- ・通学に必要な110件(62%)

今後の利用意向はJRで35%、バスで42%が利用するようになると回答。

### JRの利用意向

- ・全体の50%が今後も利用する、利用するようになると回答。

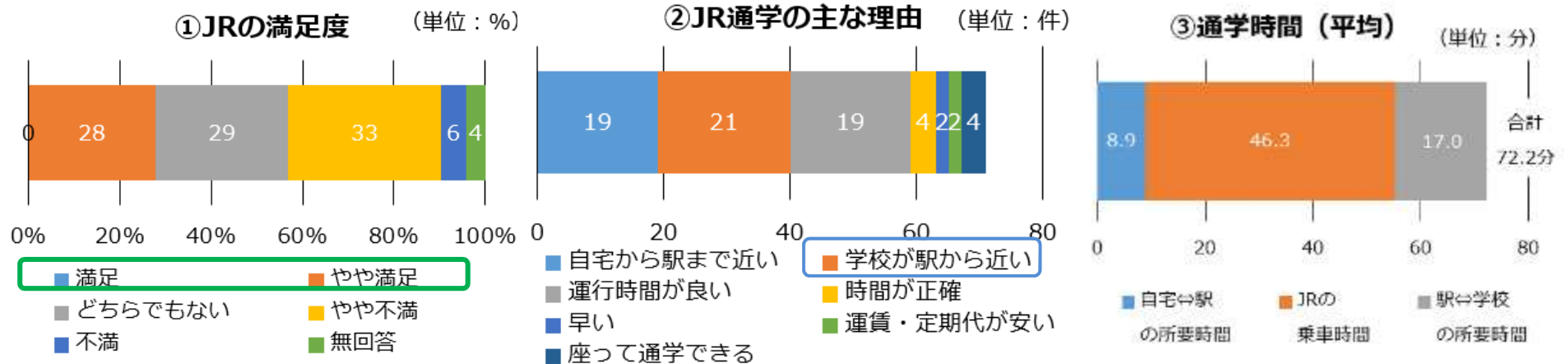
### バスの利用意向

- ・全体の51%が今後も利用する、利用するようになると回答。

# 4 調査・実証事業 結果検証②

## 公共交通利用実態調査（高校生向け）

■ 調査内容：釧網線沿線の高校通学生380人対象調査（令和5年9月）・回答72人(19%)



満足は0%、やや満足との回答が、3割弱と少なく、やや不満、不満が4割弱と上回っている。

### 項目別満足度（満足と不満の差）

- ・ 待合施設(+評価) +20%
- ・ 他列車との接続(-評価) -7%
- ・ 運行本数(-評価) -63%

JRを利用して通学している理由として、学校が駅から近いが21件（29%）と最も多く、次いで運行時間が良いと自宅から駅まで近いが19件（26%）となった。

運行本数には不満があるものの、学校に通学可能なダイヤに一定の選択理由があると考えられる。

通学時間合計が平均で72.2分と非常に長い。

総通学時間はとても長いと46%、長いと24%と7割近くが長いと感じている。

### 自宅⇄駅の交通手段(複数回答)

- ・ 家族の送迎 61%
- ・ 徒歩 18%
- ・ 自転車・バイク 18%

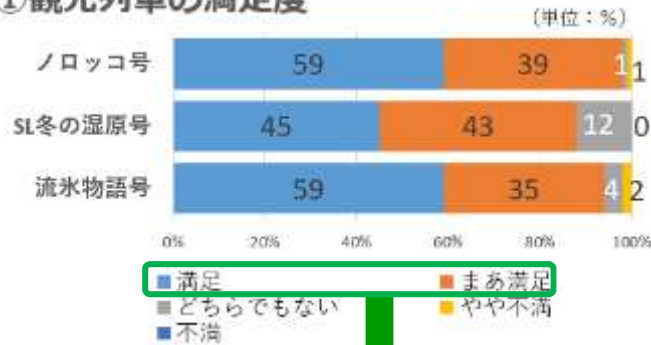


# 4 調査・実証事業 結果検証③

## 観光利用に関する意向調査

- 調査期間：令和5年8月 調査地域：札幌圏、関東圏、関西圏
- 調査対象：過去5年間で観光旅行で釧網線を利用した者216名

①観光列車の満足度



②観光列車の指定席料金受容価格



③観光列車魅力向上策（上位）



### ノロッコ号、流氷物語号

満足+まあ満足で90%以上と非常に高い満足度となった。

### SL冬の湿原号

相対的には低いが、88%と高く、不満及びやや不満は0%だった。

### 自由記述欄より

- ・暑かった、寒かったなど車内温度の不満
- ・混雑していた

### ノロッコ号

現状の840円以上の容認は60%と半数を超えた。

### SL冬の湿原号

現状の1680円以上の容認は24%と低く、現状より低い価格が妥当との意見が63%となった。

### 流氷物語号

現状の530円以上の容認は55%と半数を超えた。

本数を増やすが特に道外のお客様から多い。増発は容易ではないが、運行時間など工夫の必要がある。

ゆっくり走る、ゆったりした座席、お弁当付きなどで一日楽しめるといった景色を楽しみつつ、ゆっくりした時間を過ごす意向が強い結果となった。

# 4 調査・実証事業 結果検証④

## くしろ湿原ノロッコ号 実証運行

○運行日 : 10月8日(日)・9日(月・祝) 釧路湿原駅 約1時間停車  
10月13日(金)～15日(日) 夕陽ノロッコ  
(初の10月運行)

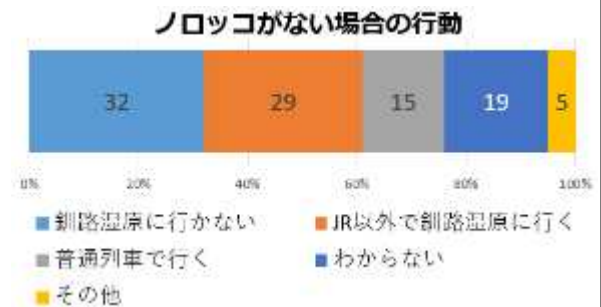
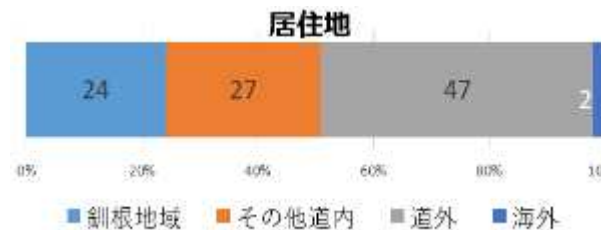
○目標 : 150人/便  
(令和2年夕陽ノロッコ初運行平均147人/便より設定)

○実績 : 168人/便(長時間停車 146人/便、夕陽 182人/便)  
目標を達成、10/9のみ低調だが新規誘発が多く効果高い。

○調査結果 : 調査回答数672名



10/8細岡展望台



- ・ 釧路市が128人(22%)と最も多く、地元のお客様に乗車していただいた。
- ・ 釧路市以下、札幌市81人、東京都65人と続く。海外は12人でうち8人が台湾。

- ・ はじめてが67%と非常に多く、新たな試みで新規のお客様につながった可能性がある。

- ・ 32%がノロッコがなければ釧路湿原に行かないとしており、旅行誘発につながっている。
- ・ また44%が普通列車や他の手段で湿原観光をされており、湿原自体の観光ポテンシャルも高い。

## 4 調査・実証事業 結果検証⑤

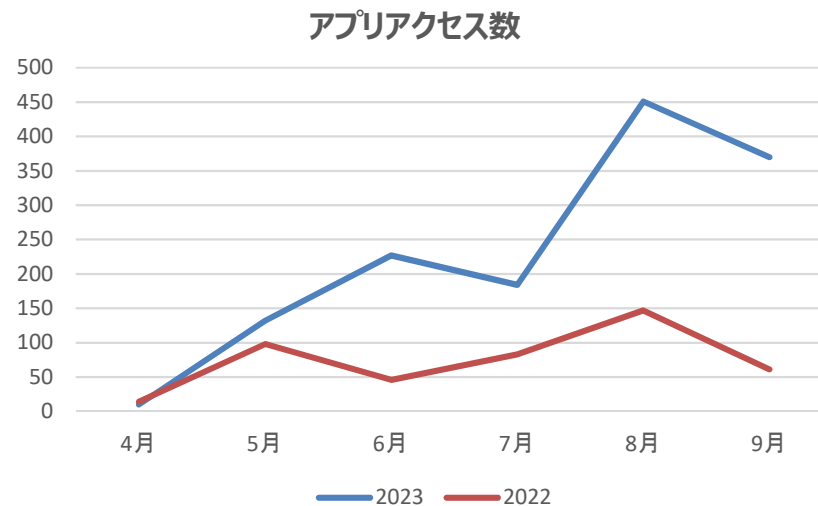
### 「いつもの列車で観光気分」周知強化

- 実施内容：周知用シール（左下参照）を54形13両の各座席窓下に貼付け、周知した
- 実施日：7月末より順次貼付け実施
- 目標：アプリアクセス数 昨年度比10%増（努力目標）
- 実績：目標を大きく上回った。

自動案内放送を聞きたいタイミングで聞けるようにアプリ画面を改修して増えたこともあるが、シールを貼って更に増加した。音声ガイドの利用度向上に効果があったと考えられる。

対前年319%（6.7月）→395%（8.9月）

6.7人/日（6.7月）→13.5人/日（8.9月）



## 4 調査・実証事業 結果検証⑥

### サイクルトレイン 実証運行

- 運行日 : 9月3日(日)
- 車両 : H100形ラッピング車両 2両団体臨時列車
- 区間 : 上級者コース  
行き: 東釧路駅～川湯温泉駅、  
帰り: 摩周駅～東釧路駅 列車乗車  
川湯温泉駅～摩周駅サイクリング
- 初級者コース  
往復: 東釧路駅～川湯温泉駅列車乗車  
川湯温泉駅～川湯温泉駅サイクリング
- 目標 : 自転車利用22人  
(1両あたりの最大積み込み数11台を目標)
- 実績 : 自転車利用21人参加  
最大積み込み数を目標にしていたため、  
達成はできなかったが、初級者11人、上級者  
10人の合計21人と概ね目標通り集客でき、  
初級者、上級者共にそれぞれのレベルに合わ  
せたコースを設定し、満足度が高かった。



- ・満足度は大変良い67%、良い33%と高い
- ・旅行商品化の際に4人(19%)が1万円以上と高評価
- ・モニターツアーとして参加費無料で実施したため支援なしでも実現可能な実施方法・価格設定の検討が課題

#### 【まとめ】

- 釧網線の学生除く日常的な利用者はごく少なく、月1～4回利用が3%となった。
- 観光列車調査では各列車とも満足度が高く、ノロッコ号では値上げ許容度が60%あった。
- 閑散期に運行した特別なノロッコ号ではHP等のみの告知にも関わらず67%の新規誘発があり、更なる味付け、磨き上げにより、利用促進につながる可能性がある。

## 5 基本指標・関連指標の検証①

### (1)基本指標の概況

#### ①令和4年度（年間）

- ・線別収支は▲1,606百万円となり、新型コロナの影響を受けご利用が減少したほか、線路の修繕費や動力費の増加等により、基準とした平成29年度より109百万円下回った。
- ・輸送密度は294人/日となり、新型コロナの影響等により、基準とした平成29年度より80人/日下回った。

#### ②令和5年度（上期）

- ・線別収支は▲625百万円となり、平成29年度より20百万円上回った。
- ・輸送密度は397人/日となり、平成29年度より30人/日下回った。

#### ▼基本指標の達成状況

項目	【年間】				【上期】		
	平成29年度	令和4年度	対目標	目標達成	平成29年度	令和5年度	増減
線別収支 (百万円)	▲1,497	▲1,606	▲109	未達成	▲645	▲625	20
輸送密度 (人/日)	374	294	▲80	未達成	427	397	▲30



## 5 基本指標・関連指標の検証②

### (2)線区収支・輸送密度の推移



営業収益、輸送密度については令和元年度にかけて、概ね横ばいで推移したが、令和2年度に新型コロナの影響等を受け減少し、回復の途上にある。営業費用については、線路集中メンテナンス実施などにより施設修繕費が増加したことなどから、平成29年度を上回る水準で推移している。



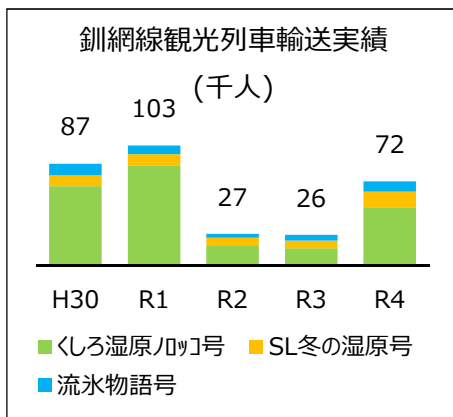
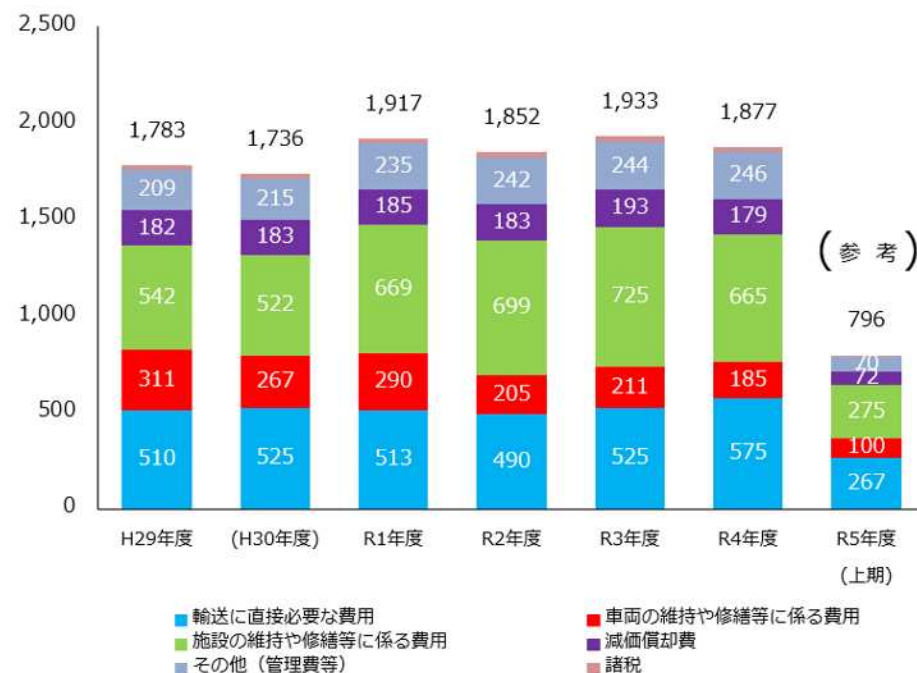
# 5 基本指標・関連指標の検証③

## (3) 営業収益・営業費用の内訳

① 営業収益 (単位：百万円)



② 営業費用 (単位：百万円)



令和2年度に新型コロナの影響等により観光列車輸送実績と同様に定期外収入が大きく減少した後、回復途上にある。定期収入は堅調に推移している。

施設修繕費が令和元年度から線路集中メンテナンスの実施等で増加している。車両の修繕費は新型コロナによるノロッコ号減便等で減少している。輸送費用は横ばいであったが令和4年度に原油高により動力費が上がり、増加した。

## 6 5年間の総括的な検証①

- 釧網線アクションプランは、利用者が少なく鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区において、JR北海道と地域の関係者が一体となって、利用促進やコスト削減など収支改善に資する具体的な取組を進め、取組を毎年度検証し、2次交通も含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを目的として、平成31年にスタートした。
  
- 第1期・第2期集中改革期間の5年間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「出張時の鉄道利用の促進」など、予定どおり実施できなかった取組があったものの、
  - ・地域の皆様や外部事業者と連携した流氷物語号運行
  - ・リモートトラベルの実施などにより観光線区としての特性を発揮するための取組を実施したほか、
  - ・ご利用の少ない駅の廃止
  - ・細岡駅の季節営業化
  - ・限りある車両でどのようなダイヤが良いかの意見交換の結果、ご利用の少ない早朝と夜間の一部列車の取りやめ等のコスト削減の取組も実施した。

これにより、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運が着実に醸成され、当初計画になかった友好都市や地域の小学生のノロッコ号の体験乗車等といった、釧網線を活性化する追加の取組の創出や実施につながった。加えて、駅の廃止や季節営業化による経費節減などの効果も見られた。

## 6 5年間の総括的な検証②

- ・一方で、観光列車の運行などでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止又は規模縮小もあり、計画した139件の取組のうち、41件（SLなど各種観光列車の運行、鉄道乗車運賃の助成など）については、期待された効果が発揮されず、その効果を十分に検証することができなかった。
  - ・なお、10件（中長期的な視野に立った利用促進施策の検討など）については、新型コロナウイルス感染症拡大により、予定された取組に影響が出る中、中長期的な議論にまで至らなかったことなどにより、計画した取組を実施できなかった。
- また、令和5年度においては、これまでのアクションプランの取組に加え、データとファクトに基づく議論を行い、これまで以上に踏み込んだ線区評価と実効性のある対策案の検討を進めるべく、国や北海道より新たに措置された補助制度を活用し、
- ・調査事業では、
    - ①公共交通利用実態調査
    - ②観光利用に関する意向調査
  - ・実証事業では、
    - ①観光のオフシーズンに新たな魅力付けをした「くしろ湿原ノロッコ号」の実証運行
    - ②普通列車で観光気分を味わえる「いつもの列車で観光気分」の周知強化
    - ③サイクルトレインの実証運行
- を実施した。

## 6 5年間の総括的な検証③

これにより、

- ・沿線住民の利用実態として、通学を除く日常的なご利用が極めて少ないが、一方で78%が釧網線を重要・まあ重要と考え、35%が今後の利用意向を持つことが分かった。高校生対象の調査では、通学時間が平均で72分であり、自宅から駅までの移動手段では家族の送迎が61%で最も多いことがわかった。
- ・観光利用については、夕陽ノロッコ号、釧路湿原駅の長時間停車など、新たな味付けによるノロッコ号の実証運行により、目標を上回る利用や新規誘発があり、満足度が高く、料金の値上げを相当程度容認する意向も見られた。また、アプリ周知強化により音声ガイドアクセス数増加が認められ、普通列車の観光利用者向けサービスの可能性を確認した。サイクルトレインは、参加者の満足度は高かった一方、継続的に実施可能な方法・価格設定について課題を残した。

- 上記のとおり、アクションプランに基づく取組等を進めてきたものの、約3年間にわたる新型コロナウイルス感染症拡大やそれに伴う行動制限・行動変容等により、観光面での利用は大幅に減少し、基本指標となる線区収支・輸送密度はいずれも目標未達が続いており、収支改善・利用拡大につながる事業の抜本的な改善方策の検討には至ることができなかった。
- 一方で、ポストコロナを迎え、令和5年度においては、インバウンドや国内旅行の増加の動きもみられるところである。

## 6 5年間の総括的な検証④

- このような状況を踏まえ、今後、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により効果が発揮できなかった利用促進等の取組について、内容を見直し、実証事業として行うことも含めて検討・実施する。また、外部事業者との連携による観光列車等の運行や情報発信を実施するとともに、あるべき交通体系の議論を進め、極端にご利用の少ない駅の見直し等の徹底したコスト削減に取り組む。  
また、令和5年度に実施した調査・実証事業の結果を基に、観光線区の特徴をより発揮できるよう、
  - ・ 長時間停車など特別なノロッコ号の設定増や高単価化の検討
  - ・ 普通列車の観光利用拡大の取組
  - ・ サイクルトレインの持続可能な実施方法の検討を実施することで、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実現できなかった収益の増加を目指し、持続性の向上を追求する。
  
- 釧網線を維持する仕組みの構築に向け、JR北海道と地域の関係者は、引き続き一体となって、これらの徹底した利用促進やコスト削減の取組を行うとともに、データとファクトに基づく議論を重ね、PDCAサイクルにより必要な見直しを行いながら、今後3年間を目途に、事業の抜本的な改善方策をとりまとめる。

釧網線 具体的取組

別紙

I. 利用促進  
1 共通

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール																	
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間									
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5					
(1) 利用実態調査	統計値では掌握しがたいお客様の層等を掌握するため実態調査の実施	JR北海道 全自治体	△	△																	
(2) 輸送サービスの向上	限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様のご意見をお聞きする意見交換の実施	JR北海道 全自治体	×	◎																	
(3) マイレール意識の醸成	①JR北海道問題に対する関心を高める取組																				
	ア. 広報誌やホームページ等を活用し鉄道特集記事を掲載	全自治体 その他	◎	◎																	
	イ. マイレール運動の提唱	自治体	◎	◎																	
	ウ. シンポジウム、意見交換会等の実施	全自治体 その他	△																		
	エ. フォトコンテスト等の実施	全自治体	◎																		
	②「COOL CHOICE」の取組みやノーマイカーデー等実施による鉄道利用促進	自治体	◎	◎																	
	③リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について 利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道	△	×																	
	④出前教室等の実施 教育現場にJR社員が赴く出前勉強会や駅の課外授業受け入れ等で線区に関するPRを行う	JR北海道 全自治体	△																		
	⑤友好都市厚木市からの小学生訪問団が、社会教育の一環として釧網線に乗り、線区に関する説明やPRを行う	自治体		△																	
	⑥小学生による駅舎ペインティング	自治体	◎	△																	
	⑦生活科見学の一環としてJR体験乗車の実施	自治体	◎	◎																	
⑧幼稚園児によるJR体験乗車	自治体	◎	◎																		
⑨小学生によるJR体験乗車	自治体		◎																		
⑩公共交通の学習と湿原を活用した環境教育の一環として小学生のノロッコ号乗車	自治体		◎																		
⑪流水トラスト運動、「COOL CHOICE」と連動した旅行商品造成販売	自治体		◎																		



取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
(4) 他の交通機関等との連携	バス、タクシー等との相互連携の推進 ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡の改善	全自治体 JR北海道 その他	◎	◎															
(5) 拠点としての駅の活用	①地域の皆様のご協力による観光案内所・売店・飲食店等の設置	自治体 JR北海道	◎	◎															
	②駅舎の整備 ア. 待合室、ホーム屋根、トイレ等の駅設備の新設改修	自治体 JR北海道	◎	◎															
	イ. Wi-Fi環境の整備・管理	自治体 JR北海道	◎	◎															
	③駅前整備 駅前広場の整備	自治体	◎	◎															
	④駅の活用 ア. 特色ある駅舎の整備	JR北海道 自治体	◎	◎															
	イ. 駅の空スペースを事務所・会議室等として開放し、鉄道利用を促す取組	自治体	◎																
	⑤駅を中心としたにぎわい創出 駅周辺に店舗・公共施設等の設置の拡大	自治体 その他	◎	◎															
(6) 当社の行き届かない取組に対するご協力	駅的环境美化の取り組み	自治体	◎	◎															
(7) 全道利用促進取組との連携	北海道鉄道活性化協議会との連携	全自治体 北海道 JR北海道	△	△															

2 生活利用

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
(1) お客様サービスの向上	①「スマホ定期券」の活用	JR北海道	◎	◎															
	②サービスレベルの向上 ・大規模輸送障害発生時等の運休等の情報内容の充実	JR北海道	◎	◎															
(2) 公共交通の利用促進	①マイレール意識の醸成に向け鉄道利用をよびかけるとともに乗車運賃等への助成	自治体	△	△															
	②学生の通学定期券購入に対する助成制度の検討	自治体	○	○															

3 観光利用

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール																
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間								
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5				
								上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 国内外から釧網線にお越しいただくための取組	①観光列車の運行																			
	ア. くしろ湿原ノロッコ号の利用増、運行に対するご協力	JR北海道 自治体	△	△																
	イ. SL冬の湿原号の利用増、運行に対するご協力、SL協議会開催	JR北海道 自治体	△	△																
	ウ. 流水物語号の利用増、運行に対するご協力	JR北海道 自治体 その他	△	△																
	②商品造成やキャンペーンの実施																			
	ア. 夏・冬の道東キャンペーンの実施、利用増	JR北海道	△																	
	イ. 観光型旅行商品の造成「道東周遊紀行」の継続、増売	JR北海道	△																	
	ウ. LCCと釧網本線をセットした商品の継続・増売	JR北海道	△	△																
	エ. 鉄道を利用する観光客への助成	JR北海道 自治体 その他	△	△																
	オ. 駅を発着し観光地・観光施設を巡るバスの運行	自治体	△	△																
	カ. 観光施設巡りバスの運行	JR北海道 自治体 その他		◎																
	③閑散期の需要創出																			
	「フリーバス」等を活用した釧網線利用促進の取組	JR北海道	◎	◎																
	④PR活動の実績																			
	ア. 各種媒体によるPR	全自治体 JR北海道	◎	◎																
	イ. パンフレット等の作成	全自治体 JR北海道	◎	◎																
	⑤観光案内所の充実																			
	観光案内所において、鉄道利用観光客への対応充実を図る	自治体	◎	◎																
	⑥宣伝協力																			
	ア. 札幌駅や新千歳空港駅等での宣伝協力	JR北海道 全自治体	◎	×																
イ. 管内各駅での宣伝協力	JR北海道		◎																	
⑦その他																				
ア. スマホを使った観光案内・外国語対応の実施	JR北海道	◎	◎																	
⑧釧網線90周年事業の取り組み	自治体 JR北海道		◎																	
⑨「くしろ鉄道めぐり」インスタキャンペーンの実施	北海道		◎																	

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール																
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間								
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5				
								上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(2) 外部事業者との連携	観光鉄道としての利用促進の取組	全自治体 WILLER JR北海道 その他	◎	◎																
(3) 地域の皆様と連携した取組の推進	①観光資源の積極的な活用	自治体 JR北海道 その他	△	△																
	②観光列車等利用促進や、駅装飾等にぎわいの創出に取り組む市民団体等に対する助成	自治体 その他	△	△																
	③沿線でのイベント・施設などに関する情報共有や利用の働きかけ	全自治体 その他	△	△																
	④ヘルシーウォーキングやエコツーリズム推進に伴うロングトレイル構想による利用促進	JR北海道 自治体	◎	◎																
	⑤釧網線とアクティビティをセットしたサービスの展開 温泉・カヌー体験等	自治体 北海道 JR北海道 その他	◎	×																
	⑥鉄道を利用した長期滞在者との交流事業	自治体	△	△																
	⑦「オホーツクSEA TO SUMMIT」の開催において、釧網線を活用したコース設定により、釧網線のPRと利用促進を図る	自治体 JR北海道 その他	△	△																
	⑧ふるさと納税返礼品等	自治体	◎	×																
	⑨ふるさと納税者特別企画の実施	自治体	◎																	
	⑩仮想道の駅フェスティバルの実施	自治体	◎																	
	⑪スタンプラリー&鉄道まつり	自治体 その他	◎																	
	⑫「THE ROYAL EXPRESS～HOKKAIDO CRUISE TRAIN 沿線におけるおもてなし	全自治体 北海道 JR北海道	◎	◎																
	⑬釧網線の利用促進を目的としたツアーの実施	協議会		△																
	⑭「HOKKAIDO LOVE!ひとめぐり号」運転 沿線におけるおもてなし	全自治体 北海道 JR北海道		◎																
	⑮市民団体、バス会社と連携した公共交通時刻表の作成	網走市		◎																

4 広域交通

取組内容		事業主体	目標達成		スケジュール															
					H29					H30										
			(第1期)	(第2期)	第1期集中改革期間					第2期集中改革期間										
					R1		R2		R3		R4		R5							
上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期									
(1) 出張等での鉄道利用	官公庁、域内事業者等による、出張等での鉄道利用の促進	全自治体 その他	△	△																

II. 経費節減

取組内容		事業主体	目標達成		スケジュール															
					H29					H30										
			(第1期)	(第2期)	第1期集中改革期間					第2期集中改革期間										
					R1		R2		R3		R4		R5							
上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期									
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮のご相談	①業務委託のご相談																			
	ア. 乗車券の発売	自治体 その他	△																	
	イ. 観光案内や通訳業務等、SL期間中 学生外国語通訳、ボランティア	自治体 その他	△	△																
	②業務のお手伝いをお願い																			
	ア. 無人駅の施設管理	自治体	◎	◎																
イ. 除雪係員確保のお願い 等	自治体	◎	◎																	
ウ. 駅前除雪	自治体	◎	◎																	
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①極端にご利用の少ない駅の廃止について各自治体との協議	自治体 JR北海道	◎	◎																
	②極端にご利用の少ない踏切の見直しについて各自治体との協議	自治体 JR北海道	○	○																
	③ご利用の少ない駅トイレの利用停止についての各自治体との協議	自治体 JR北海道	◎	◎																

Ⅲ. その他

取組内容	事業主体	目標達成		スケジュール															
		(第1期)	(第2期)	H29		H30		第1期集中改革期間				第2期集中改革期間							
				上期	下期	上期	下期	R1		R2		R3		R4		R5			
								上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討の開始	全自治体 北海道 JR北海道	×	○															
	②2次交通との連携に向けた検討	全自治体																	
	ア. 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた検討の開始	北海道 JR北海道 その他	×	○															
	イ. 地域公共交通計画の策定 鉄道、バスなどの連携による地域に最適な公共交通の検討	網走市 JR北海道 その他 北海道	◎	◎															
(2) 中長期的な利用促進施策について	中長期的視野に立った利用促進施策の検討	全自治体 その他	×																
(3) 中長期的な経費節減策について	中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性について検討	全自治体 その他	×																
(4) 街づくりについての検討	駅都心部まちづくりの検討	自治体 JR北海道 その他	○	◎															
(5) その他地域の皆様と一体となった取り組み	相互連携の検討	全自治体 北海道 JR北海道 その他	×	○															
(6) 鉄道設備を維持するための取り組みの検討	鉄道設備を維持するため、集中工事等を実施する仕組み作りを関係自治体と協議し行う。	全自治体 北海道 JR北海道	◎	◎															